



「二軒茶屋 中村楼」
父・辻 雅光さん 息子・辻 喜彦さん

代々、門前で見守られて

【おいやす】

父「室町時代の終わりに八坂神社の南楼門にあった

二軒の茶屋の一つが店の始まり。

初心を忘れへんように二軒茶屋の名を残してるんや」

子「江戸時代には、その当時の流行を取り入れ

串に刺した田楽豆腐をこしらえて喜ばれたそうですね」

父「お客さんが何を求めたはるかを考えるのが大事。

そして長く商いを続けられてるんは祇園さんのおかげや」

子「小さい頃から祇園さんがおいやして

見守ってくださっていると感じてました。

感謝の気持ちは、ゆめゆめ疎かにはできませんね」

父「この店には代々の思いとともに祇園さんがいつも『おいやす』

商いのご先祖からの大切な預かりものということを

忘れへんように、これからも精進せなあかん」

丁寧語の「お」と敬語の「やす」を二重に付けた京ことばは最も敬意の高い敬語表現。「おいやす」は「居る」「お」と「なざる」「られる」などと同義語の「やす」からなる言葉で「おられます」とか「いらっしゃいます」という意味。

おもいことばに託して
京ことば

「ON YOUR SIDE ～一緒にうれしい～」京都中央信用金庫は地域の歴史や文化をささえる活動を応援します。

 **京都中央信用金庫**